

# 彩の歳時記

平成二十七年 六月

## 六月 茨木のり子



どこかに美しい村はないか  
 一日の仕事の終わりに一杯の黒麦酒  
 鎌を立てかけ 籠を置き  
 男も女も大きなジョッキをかたむける  
 どこかに美しい街はないか  
 どこかに美しい人との力はないか  
 どこまでも続き すみれいろした夕暮れは  
 若者のやさしいさざめきで満ち満ちる  
 どこかに美しい人との力はないか  
 同じ時代をともに生きる  
 したしきとおかしきとそうして怒りが  
 鋭い力となって たちあらわれる



1956年6月、朝日新聞掲載の詩『六月』【詩集「見えない配達夫」所収】は、六月、麦やさくらんぼの実る初夏、晴れた日は陽光も強く昼も長く緑も一段と濃く、生命力が漲る季節、人々の生き生きとした姿が季節とマッチしているようです。反面、梅雨のイメージも強く詩の情景のような理想が、今、ここにも感じさせます。国語の教科書に掲載された『わたしが一番きれいだったとき』や『自分の感受性くらい』などで「戦後現代詩の長女」と呼ばれた**茨木のり子**【1926年（妊15）〜2006年】は川崎洋と同人誌「權」を創刊し、戦争を通過し、その体験を見つめることで詩的出発をした谷川俊太郎、大岡信・吉野弘等を輩出しました。年齢を重ね、何ものにも頼らず、流されずに生きる姿を表現した『**倚りかからず**』は高い人気を博しました。



## 六月の暦水無月

「無」は「の」にあたる連体助詞「な」で「水の月」という意味。

一日 衣替え 日本特有の習慣で平安時代、宮中で始まる。官公庁・企業・学校などで実施。きものは**伝統を重んじ**、**布・仕立て・文様・柄**なども**衣替え**。

六日 芒種【二十四節気】 芒種「稲や麦など穂が出る穀物」の種を蒔く時期。ささやくは芒種の庭の番（つがひ）鳩 石原八束【1919〜1998】

六日 お稽古の日 世阿弥の『風姿花伝』に習い事を始めるには七歳（満六歳）とあり、江戸歌舞伎の語呂合わせから、幕末の巷では「六歳の六月六日」という言い回しが慣習化したと言われる。

八日 長明忌 日本三大随筆「他に枕草子・徒然草」の一つ「方丈記」の作者・鴨長明【1155〜1216】

の忌日。漱石は学生時代に「方丈記」を初めて英訳、世界に紹介しており、「草枕」に影響を与えているという。芥川龍之介、坂口安吾や檀一雄、中原中也、内田百閒も長明に私淑。「ゆく川の流れば絶えずして、元の水にあらず。」は有名。



十一日 入梅【雑節】 暦上での梅雨入り「春の終わり」であると同時に「夏の始まり」。

十九日 桜桃忌 作家太宰治の忌日であり、誕生日でもある。青森生まれ。昭和初期



一番の人気作家となるが、昭和20年玉川上水で心中。享年39歳。作品『桜桃』に因む。三鷹市の禅林寺の墓前【森鷗外の墓と対面】で毎年盛大な桜桃忌が行なわれ、今も人気が高い様子が窺われる。東京帝大仏文科中退。五所川原市の実家、斜陽館は重要文化財。子に小説家・津島佑子・太田治子がいる。同郷の寺山修司の句に 他郷にてのびし鬚剃る桜桃忌

二十一日 父の日【第三曜日】

二十二日 夏至【二十四節気】 夏に至る。月はいま地球の真裏ふたつ蝶 正木ゆう子

三十日 夏越（なごし）の祓 一年の半分が過ぎる六月の晦日と十二月の晦日に行われる平安時代から続く疫病除けの神事。「茅の輪くぐり」が有名。

六月の歌 雨にぬれても 曲バート・バカラック 歌 B] トーマス



Raindrops keep falling on my head  
 and just like the guy whose feet  
 are too big for his bed  
 nothing seems to fit, those  
 raindrops are falling on my head  
 they keep falling

1969年の映画『明日に向かって撃て』の挿入歌。ポール・ニューマンとキャサリンロスが二人乗り自転車而走るシーンで流れる百貨店などのBGMや、雨よけのカバーを掛けるなど店員向けの合図代わりにされる事も。「雨が僕の頭に落ち続ける。ちょうど足が長過ぎてベッドに収まらない男みたいにすべてが上手くいかないように感じる。雨が僕の頭に落ち続ける。」